



旧児童本館の大食堂でバレエを披露する福島ひろ子さん(左端、1963年)

感謝 水上の友

発行 社会福祉法人
大阪水上隣保館
〒618-0001
大阪府三島郡島本町
山崎5丁目3-18
発行人 黒川 芳朝
編集 広報委員会
法人事務局 075-961-0711
FAX 075-961-1144
http://www.osakasuijyorinpokan.com/
印刷所 (有)木村桂文社

「運が良かった」としか・・・

近藤 (旧姓 福島) ひろ子

主人が六十五歳で亡くなって十年。私とその歳になり、元気でいたら隣保館に何か恩返しをしたいとずっと思っていました。そして今年、その年齢になりました。

私が隣保館に来たのは三歳の時で、戦災孤児か捨て子で天涯孤独の身であることを知りました。

中学三年まで他の子どもたちと一緒に生活しましたが、先生方は私の身の上を案じてか、皆優しくかったですね。当時、隣保館でクラシック・バレエ教室が開かれており、私も小さな時から習わせて頂きました。

中学を卒業しても、行き先のない私は、ママ先生のホームで隣保館のお手伝いをしながら数年過ごしました。もちろんバレエも続けて、先生の助手のようなお仕事もさせて頂きました。

その頃、ワークキャンプに来ていた大学生の方が私の将来を心配して、遙先生に手紙を出されたことで、開校間もない保育専門学校に入学でき、保育士になる道が開かれました。ピアノは誰よりも練習してバレエ同様に自分の

二〇一六年標語
わたしたちは見えるものではなく、
見えないものに目を注ぎます。
—新約聖書、「ロントの信使」の手紙II 四章八節—

大きな自信になりました。

保育士の資格を取ってからは、館内の小羊保育園や遙先生の紹介で大阪市内の保育園でも長く働きました。

バレエの先生のご縁で、公務員としていた主人との結婚が決まると、ママ先生が全ての準備を下さり、隣保館からお嫁に行くことになりました。マリッジ・ブルーになって「行きたくない」と言つと、ママ先生に「とりあえず一度は行きなさい」と言われたことを思い出します。

主人の口癖は「平凡なことほど非凡なことではない」でした。平凡な家庭が一番です。主人は、私をとても大事にしてくれ、余りにも幸せすぎて不安になるほどでした。暫くは家にいました。が、子どもに恵まれず、茨木市内の保育園に再就職し定年まで勤めました。三十五年の幸せな結婚生活の間、今改めて、主人の大きな愛の翼の中で庇護されていたことを思い知らされています。主人が亡くなって、周りから学歴・施設出身などとチクチク刺さってきます。主人が守ってくれていたのです。振り返って見ると「運が良かった」としか言えません。

自分の人生は、すべて出会いの一つひとつが力になって、心の向くままに進んできたように思います。

施設では何不自由なく育ちましたが、世間は「孤児」と見下げました。しかし、卑屈にならず堂々と生きることの

大切さは、隣保館の先生方からの言葉にありました。「ひろ子は必ず幸せになる」「絶対に良い保母さんになれる」と言う力強い言葉を何度も思い返し勇気づけられました。

遙先生の「無から有を生み出す」も、欠点だらけで知識や根性の無い自分でも何かができるはずだと思えてくる魔法の言葉でした。

子どもたちには、正しく強くなるための勉強をすることを願います。そして職員の方々は、忙しくて大変でしょうが、心を込めて毎日明るく楽しく、子どもを愛し育てて下さいね。懸命に働く姿を見せていたら、大丈夫だと思えますよ。(卒園生)

この度、近藤様から隣保館に多額の献金を頂戴しました。心から感謝します。

暑中お見舞い申し上げます

主はこう言われる。「岐路に立って眺めよ。昔からの道に問いかけてみよ。どれが、幸いに至る道か」と。

—旧約聖書エレミヤ書 六章一六節—

昨今、大衆迎合的な政治が台頭し、自己中心主義こそ善であるとする風潮が広がっています。人々の情緒的支持を背景に、大切なものを失いつつあります。

暑さ厳しき折柄、皆様のご健勝を心からお祈りいたします。

二〇一六年 盛夏

社会福祉法人 大阪水上隣保館



カット絵・小六 まり

嫌だったけど

中三 女子

私は、今までの卒園生のように、ひびきが好きではありません。家でなら無いはずのルールがあり、施設で生活することが、普通の子じゃないって言われてるみたいで、すごく嫌でした。

だから中学生になってからは、クラブに入り、委員会活動にも力を注ぎ、嘘について友達と遊び門限を破り怒られたりしながら、少しでもひびきから離れられるようにしました。

でも今振り返ると、学校生活のすべてに積極的に取り組むことができ、人との和を広げる事ができて、気持ちよく卒業できました。

三人の先生

高三 女子

私が遙に来て三人の先生が担当をしてくれました。

高校受験のため勉強を頑張る私に、周りの人が疑うなかで、唯一信じて応援してくれた先生からは、人を信じる

大切さを学びました。

高校生活では、よく注意をされて私が離れていって、話をしなくなったり問題を起こしても、私を見放さず、一番に考えてくれた先生。

私には確実な夢がなく軽い気持ちで目指そうと思った看護師という夢を応援してくれた先生。途中、現実を突き付けられ本当に辞めたいと思った時もあったけど、頑張れました。

先生ありがとうございます

中二 女子

お誕生日 おめでとう！

いつもおいしいパン焼いてくれてありがとう、そしてみんなのために何かしてくれてありがとう！

そういう先生が私はめっちゃスキ！これからも仕事がんばってネ。早くだんなさんがみつかるといいな。また一緒にお風呂入るーね♡



折紙「水族館」



杉山一郎様の記事を読み涙が溢れました。何とか高校を卒業させてあげたかったなあーと心から思いました。どうか小さくても幸せな日々をお過ごし下さい。

奈良市 岡本 昭子

杉山一郎様の後輩諸君への言葉身にしました。今まで自分を愛することが一生懸命でもいろんな人との出会いを大切にすることをなおざりにしていました。遅くとも改める努力をしたいと思えます。高槻市 高木 美紗・誓子

クロスカントリーで坂を駆けあがる子どもさんたちの姿に背を押して頂く思いです。奈良市 北畑 和久・幸子

「はるか」と名付けた長女も半年前より大病を患ったものの、四月からは同志社大学神学部へ進むことが決まりました。生まれる前から通っていた天満教会にて十二月二十日受洗予定です。主のお導きに感謝の毎日です。大阪府 中野 里美

主に感謝します。藤の里保育園の悲しいお知らせに心が痛みます。良いお働きの方々の妨げになりませんように。京都市 亀井 正子

「第五十三回桜バザー」のお礼

今年は、四月九日・十日(第二土・日)、天候に恵まれ開催できました。ゆりの礼拝堂ではアクションショー

やハーブ、ギター演奏、人形劇等のイベント、屋外では吹奏楽や和太鼓、よさこいソーラン、剣玉ショー等のイベントに十九のV団体が参加。このほか、三十六のグループによる多彩な屋台やゲームコーナー等々、大賑わいでした。ご協力頂いたボランティア、ご支援者、地域の皆さまに心よりお礼を申し上げます。(法人参与 村瀬 愛)

総収入	3,211,990
総支出	2,713,220
純 益	498,770

計 報

- 石田芳雄さん (二〇一六年一月三十日召天)
 - 元逢学園主任指導員・卒業生
 - 河村達也さん (五月二十日召天)
 - 日本基督教団教師
 - 元逢学園日曜礼拝説教担当者
 - 坂井尚美さん (五月二十八日召天)
 - 法人理事・弁護士
 - 平 剛さん (六月二十九日召天)
 - 法人評議員・当館賛助者
- 長年に亘る貴いお働きに心より感謝し、御霊の上に神様の祝福が豊かにありますようにお祈り致します。

児童養護施設
遙 学 園

豊中市に新しく

児童養護施設を開設します！

ホームページでもお知らせしておりますが、来春、豊中市宝山町に小規模児童養護施設（仮称「第二遙学園」）を開設することとなりました。

◆小規模化のとりくみ

様々な事情で家庭から離れて暮らす子どもたちを支える施設について、模索が続けられてきましたが、「可能な限り家庭的な安定した人間関係の下で育てることができるよう、施設のケア単位の小規模化をはかる」との国の指針（二〇一二年）が示されました。

遙学園は定員一六四名。府下では一番大きな児童養護施設ですが、いくつものホームに分かれて、子どもたちと職員の手を分かち合っていました。現在の総合棟となつてからも、その熱い思いと経験をしっかりと受け継いで、一人ひとりの子どもの育ちにしっかりと目が届くよう、施設内外で、様々なグループケアに取り組んできました。また、乳児院でも、愛着関係の土台作りを大切に、グループケアを取り入れていきます。

とはいえ、まだまだ地域に根差す、より小さな施設作りが大命題。そんな折に、地域に児童養護施設があれば、との豊中市の誘致計画に出会い、審査を経て、開設することとなりました。

◆新施設の概要

新しい施設は、児童二十四名に乳児院グループケア（六名）も加わり、三十名の定員となります。

現在、また着工に向け準備中ですが、三階建てで、一階に乳児のホームや事務室、地域交流室などを、二・三階に児童のグループケア（四ユニット）、シヨートステイの部屋などを配置予定です。

また、島本町や枚方市、高槻市で実践している地域子育て支援の経験を活かして、子育て短期支援事業（シヨートステイ事業）や、二十四時間電話相談事業なども行い、地域の子育て家庭のニーズに添えていきます。

（仮称「第二遙学園」準備室長 渡邊治子）



完成予想図

児童心理治療施設
ひびき

今はじつと頑張る 高一女子

私は、中学三年生の六月にひびきにきました。

来た時は、高校受験は考えていなくて働くつもりでしたが、周りの大人の説得で高校に行くことにしました。塾に通って三年間の復習をしたり、自主学习では苦手な教科を中心に頑張っていました。が、中学校の定期テストでは、思うように結果が伸びずムシヤクシヤしていました。

そんな時に「勉強しなさい」と毎日のように言われ、担当職員さんともたくさん喧嘩をしましたが、進路についてゆっくり話し合うこともできました。それでも受験日まで辛くて何度も就職したいと思い、フリーターになることも真剣に考えたりもしました。

でも合格できたことで「受験してよかった」とようやくよく思えるようになりました。

高校に行き始めて、周りの人と自分を比べるとしんどいことがあります。

「携帯を持ちたい」「友達と遊びに行きたい」など全部できる訳ではないけど、悩むことがあります。

それでも今はここで頑張るしかないの、周りと比べるのではなく、「自分分は自分」と思って前向きに頑張っています。

いこうと思います。そして、アルバイトもしながら高校を卒業して自立できるようにになりたいです。

（担当職員から）

中三という大変な時期に、ひびきに来るといふ大きな環境の変化があり、毎日のように悩み苦しんでいましたね。夜遅くまで進路について話し込んだり、自暴自棄になった時は、何度も泣きながら言い合いになりましたね。

ただ、学校で良い友達関係を築けていたこと、たくさん職員さんが支えてくれたのは目標に向かって諦めず頑張る姿があったからだと思います。

高校生活もまわりとの違いにしんどさを感じながらのスタートとなりましたが、自分を信じて、貴方らしさを大切にしながらこれからもいっしょに頑張りますようにね。



「行ってきます！」

乳 児 院

♥ トイレトレーニング

最近トイレトレーニングを始めたKちゃん。おしっこをしたあと自分でも自分で拭けます。その後は大人におしりを向けて仕上げ拭き。

シャアッと流し終えたKちゃんは、とても嬉しそうで少しお姉ちゃんのように見えますが、まだまだ甘える事が大好きで笑顔が可愛い女の子です。

(保育士 植山三渚)

♥ 女子会

まだまだおしゃべりのできないMちゃん。でも、女の子たちが集まって楽しそうにお話しているとMちゃんも急いで仲間入り。

おしゃべりの最後の「○○ねー!!」の「ねー」の所だけみんなと同じように首をかしげて一緒にお話しています。

(保育士 坂下美穂)

♥ 食べてー!

最近「どうぞ」という言葉が言えるようになったSちゃん。何でも大人に持ってきて「どうぞ」と食べさせてくれようとしています。

「それは食べれないよ」と大人が食べるふりをしないと怒って無理やりにも食べさせようと大人の口元まで運ぼうとします。

(保育士 中野杏子)

♥ まねっこ

朝食前、子ども達とテレビを見ていたらパンケーキの特集をしておりますのを見て、「おいしそうねー!」「食べたねー!」と沢山話してくれるようになります大人に「あーん」と食べさせる真似をしてくれたり、とても可愛い子どもたちです。

(保育士 柳本澄佳)

♥ 上腕二頭筋

五月末で九ヶ月になったRくん。離乳食を食べ始めたから急に体重が増え、身体はパンパン。でも、毎日欠かさずある運動をします。

それは、「腕立て伏せ」。「すーいねー」と褒めると、いつも得意げな顔をして上腕二頭筋を鍛えるRくん。これからの成長が楽しみです。

(児童指導員 堀口桃恵)



腕立て伏せ!

特別養護老人ホーム

弥 栄 の 郷

いっしょになっても勉強

—支えてもらった言葉—

『いっしょになっても学ぶことはある。その年齢や段階ごとに、学ぶべきことがある。学び終わったと思っても、次から次に学ぶことが出てくる。それはいくつになっても変わらない』

これはデイサービスのあるご利用者の言葉です。悩んだ時や落ち込んだ時などに、よくこの言葉を思い出します。弥栄の郷に勤め十一年が経ちました。始めの六年は特養、その後「デイ」へ異動となりました。同じ建物内にはありますが、入所施設と在宅サービスではご利用者の身体的・精神的な状況も、職員に求められる能力も違います。

「デイ」に異動して強く感じたことは「見られている」という意識です。ご利用者への対応をほかのご利用者にある時はご家族の方に。当初はこの意識がとても苦手でした。しかし、これが自分のこれまでの関わりを振り返るきっかけとなりました。今の対応でご本人や周囲におられる方に不愉快な思いをさせなかったか、今の声かけを、ご家族はどのように感じられたのだろうか、と考えるようになりました。この振り返りを通し、見られている意識を持つ大切さに気付きました。また対

応する方だけでなく、その周囲の方やご家族にも安心してもらえる関わりを持ちたい、認知症の有無に関わらず、通用する対応をしたいと思うようになりました。この視点は常に忘れず持ち続けていきたいと思っています。冒頭のご利用者の言葉を借りると、これが異動した当初、私が学ぶべきことだったのだと思います。

自分自身の関わりについて、まだまだ未熟だと思つことが今でもたくさんあります。考えて行動したつもりが、うまくいかないこともたくさんあります。そのような時に「今は学んでいる最中」と考えると少し心が軽くなります。そして冒頭の言葉のように、人生の先輩方から、ご自分たちのこれまでの人生から得た言葉を聴くことができます。この仕事にとっても魅力を感じています。

弥栄の郷 デイサービスセンター
(リーダー 中村仁恵)



イラスト
安達都美 (事務職員)

大阪保育福祉専門学校

HOSUZUKU

実習指導が充実 その①

HOSUZUKUの実習指導の最大の特徴は、一クラス三十名までの指導体制。国の基準は五十名ですが、保育所以外の実習指導の授業は、二〇〇名で実施している学校もあります。二つ目の特徴は、実習前後の授業時間数の多さ。基準は保育所・施設実習を合わせて三十時間に対し、施設実習のためだけに六十時間実施しています。

実は、教員自身がHOSUZUKUで実習指導を担当して初めて、母校の指導内容の貧弱さに気づかれました。創設当初の先生方が「施設保育士の養成」という遙先生の思いを具現化するため、基準や既存の形式に囚われることなく、現場重視で積み上げてこられた結果です。

一年生の実習指導は、十月の実習に向けて、児童養護・知的障害児者・医療型障害児の三種の入所施設見学から始めます。見学前にDVDや講義で学び、見学前レポートを作成、自分が学びたいことを明確にします。見学前後のレポートの添削を繰り返して、見聞きしたことをまとめたり、自分の感じたこと、考えたことを文章化できる力をつけられるよう指導しています。

(副校長 植田彌生)

#児童養護施設見学後レポートより#

私は、見学前「人と関わることが苦手な子どもに対してどう接するのか」という疑問をもっていた。「子どものことを否定せず、なぜそうなったのかを考え受け入れる」と自分なりに考えていたが、その答えは半分だけ正解だった。子どものことを否定せずに受け入れることは重要だが、普段の生活でいつもと違う変化に気づくこと、挨拶すること、子どもの好きなことを見つけてあげることがもっと重要だ。違うことがあるということ、子どもの心境に変化があるということ、それに気づくと子どもとの関わり方のヒントになる。人は、自分の考えていることを相手がわかってくれると嬉しいし、心を開いてくれるのだと思う。(保育科一年)



保育実習

学校法人 山崎学園

山崎幼稚園

未就園児「あそびっ子」

新入園児一三五名を迎え、総勢三七四名で二〇一六年度が賑やかにスタートしました。お母さんが恋しくなり、涙顔の子どもたちも、年中・年長のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちが、優しくサポートしてくれたお蔭で五月にはすっかり「山崎っ子」の顔となり、元気に毎日を過ごしています。

幼稚園選びの方法として、インターネット、口コミ、兄弟の繋がり等がありますが、未就園児クラスの「あそびっ子」の利用者の割合も大きな比重を占めるようになってきました。

あそびっ子の利用は、二歳以上で、親子で参加するクラスです。プログラムは、室内遊具遊び、親子の触れ合いあそび、季節に応じた親子での製作、園庭遊び、おやつ、手遊び、紙芝居等が主なものです。

初めてあそびっ子に参加してくれたお友達は「ここ、何処?」「何する所かな?」と緊張した表情を見せることもありますが、在園児の元気に遊び回る声に刺激を受けたり、玄関で飼っている三匹の亀にほっこりしたり、大好きな電車を見たりする中で気持ちもほぐれていき、親子で二階のホールへと入ることができるようになります。



2階ホールにて

帰り際にはニコニコ笑顔になり「また来たいな」と次の予約を入れて下さるので、定員二十名の枠が直ぐに埋まってしまうほどです。

親子で一緒に過ごすことにより、園に対する理解が深まり、保育内容に共感して頂け「山崎幼稚園に入園したい」という気持ちになったと言ってくださる保護者も多くいらっしゃいます。

また、担当保育者は元職員なので、保育者として、先輩母親としてお母さんの話にゆったりと耳を傾けて相談にに応じていますので、保護者の方々にとって、気軽に育児の話がしやすいことも人気の秘密だと思います。

あそびっ子出身の子どもたちが、幼稚園デビューを無事に果たし、次の子どもたちに幼稚園の魅力のバトンを繋げていってくださるのではと期待しています。

(会計主事 佐古博子)

山崎保育園



保育参加

幼児クラスでは、五月から六月にかけて（一日十組程度）保護者が保育に入り子どもと一緒に過ごす「保育参加」という行事があります。

保護者の方々は子どもと一緒に遊びながら、園での生活を見てもらい、普段の保育の様子や友達と関わって遊ぶ姿などを見てもらうことができます。朝一緒に登園し、お散歩に行つて子どもたちと一緒に遊んだり遊んでもらった後、給食を食べて一緒に降園します。

子どもたちは「明日は私のお母さんがくるぞー！」などと言いながら心待ちにしています。保護者の方々にしても子どもとゆったり過ごせるいい一日になっているのではないかと思います。（保育士 星野美樹）

認定こども園 藤の里保育園



わくわく春の散策

五月二十日、幼児三クラスで高槻の城跡公園まで春の散策に出かけました。歩いて約三十分かかるため、五歳児は三歳児と手をつなぎリード。疲れ切った子もいましたが、到着するとみんな急に元気になりました。

現地では五月のお誕生日会、グループ対抗のボール運び競争などをしました。ボールが落ちてもめげずに一生懸命。お昼になると、お家の人を作ってくれたお弁当を広げ、嬉しそうなお子どたち。おやつもペロリと食べおなかいっぱいになりました。帰りは予想通りヘトヘトでした。中には歩きながら寝てしまった子も。みんなで声を掛け、はげまし合いながら園に到着しました。（五歳児担当 宮内まどか）

つどいの広場「ぱんだのいえ」



お話し会

三ヶ月に一度、ボランティアグループ「ありのあしおと」のスタッフの方に来ていただき「おはなし会」を開催しています。始まりの合図は鉄琴の優しい音色で、おしゃべりに夢中になっている子どもたちも舞台に目を向け静かになります。

お母さんと一緒に手あそびを楽しんだ後には、季節を感じる本や動物が登場する絵本の読み聞かせの始まりです。スタッフの方の声や表情で、大型絵本やしかけ絵本のストーリーの展開にお母さん子どもたちもドキドキしたり、笑ったり、とても楽しく過ごしてくださいませ。次回はどんな絵本に出会えるか、今からとても楽しみです。（センター長 辻 晶子）

大阪水上隣保館附属診療所



押し花のカルテ

診療所には隣保館のお子さん以外に地域のお子さんも来院されています。現在四才になる女の子は、まだよちよち歩きの頃から来院いただけてますが、診療所にいらつしやる度に、「小さな手に一輪のお花を握りしめ、「先生、いつもありがとう」と言つて渡してくれます。その花を飯田先生はカルテの来院された日付の所に貼ります。

カルテに花を貼るなんて！と最初はびっくりしましたが、その時その時の四季折々の草花が、色あせることなくカルテの中に生きていて、それはそれはにぎやかな可愛いカルテとなっています。成長と共にこれからの押し花カルテになっていくのか、ひそかな楽しみです。（看護師 菊池弘美）

